

## OECDによる経済見通し中間評価の公表（2015年9月）について

平成27年9月

OECD代表部

本年6月のOECDによる経済見通し（Economic Outlook97）につき、その後の新たな状況変化を織り込み、時系列モデルを活用し、部分的な改定を行う経済見通し中間評価がOECDより公表されました。

今回の中間評価において公表された主要国・地域の2015年、16年の実質GDP成長率は以下のとおりです（）内は本年6月見通し）。

	2014年（実績）	2015年	2016年
日本	▲0.1%	0.6%（0.7）	1.2%（1.4）
米国	2.4%	2.4%（2.0）	2.6%（2.8）
ユーロ圏	0.9%	1.6%（1.4）	1.9%（2.1）
中国	7.4%	6.7%（6.8）	6.5%（6.7）

世界経済のここ数ヶ月の不透明性の増大を指摘し、世界経済見通しが引き下げられました。世界貿易の停滞や金融環境の悪化にも関わらず、米国を中心に先進国経済の回復は持続しているとする一方、多くの新興国の経済環境が悪化しているとして、新興国経済の見通しを中心に引き下げています。

一方、米国は堅調な成長を続けている一方、それ以外の国では不思議なパズルが見られるとし、ユーロ圏は金融緩和やユーロ安などの後押しが思うように効果を上げていない、中国はデータごとに互いに異なるシグナルが出ており評価が難しい点を挙げています。

我が国については、2015、16年ともに若干成長率見通しが引き下げられました。足元のGDPデータが不規則な動きをしている点、経済活動や雇用は回復している一方、物価上昇圧力の弱まり、消費の上昇につながる賃金上昇が未だ見られない、足元の輸出の弱さが指摘されています。

（注）OECDエコノミック・アウトルックは年2回（6、12月頃）、それを部分的に改定する中間評価は年2回（3、9月頃）公表されるOECDによる世界経済見通しです。引用等に当たっては、必ず本文（下記リンクご参照）をご参照下さい。

<http://www.oecd.org/eco/outlook/Interim%20E0%20handout%20Sep%202015.pdf>

（以上）